

報道関係各位

ソーラーシェアリング設備下で初めての落花生収穫

2018年10月31日

千葉エコ・エネルギー株式会社

ソーラーシェアリング設備下で初めての落花生収穫

千葉エコ・エネルギー株式会社（代表取締役：馬上丈司、本社：千葉県千葉市）は千葉市内で農地を借り、自ら農業にも参入したその知見を生かし、全国でソーラーシェアリング（営農型太陽光発電）に関する総合コンサルティング事業を展開しています。この度10月18日より、自社ソーラーシェアリング設備「千葉市大木戸アグリ・エナジー1号機」にて初めての落花生収穫を行ないました。

記

日時：2018年10月18日（木曜日）より開始

場所：千葉市緑区大木戸町 千葉エコ・エネルギー株式会社 大木戸圃場（2ページ目）

内容：ソーラーシェアリング設備下にて落花生の収穫／サンプル採取



1. 概要

当社が大木戸圃場で農業を始めてからおよそ半年が過ぎ、本格的な収穫作業は今回が初めてとなります。

今回収穫した落花生の品種は「郷の香（さとのか）」と「千葉半立」です。郷の香はゆで豆用、千葉半立は煎り莢用の品種で、食味が良いことが特長です。（出典：千葉県ホームページ「落花生の品種選びと播種のポイント」2018年10月24日 <https://www.pref.chiba.lg.jp/ninaite/network/field-h25/hata1305.html>）

当社は、ソーラーシェアリングという特殊環境下での高品質・高収量かつ安定生産が可能な農作物の栽培方法を確立するために、様々な作物を試験栽培し、調査・研究を行っています。落花生は試験栽培作物のひとつであり、千葉大学大学院園芸学研究所、磯田昭弘教授の研究室と共に、設備下と設備外にてそれぞれサンプルを採取しました。

落花生のほかにも、サツマイモやサトイモ、トウガラシ、イチゴなど、様々な作物を試験栽培しています。また、各専門家と共同で研究を行ない、ソーラーシェアリングと組み合わせる最適な農業を見つけ出し、新しい農業モデルとして形作っていきます。

2. 背景

担い手の減少や耕作放棄地の増加、食料自給率の低下など、日本は農業を取り巻く多くの課題を抱えています。一方エネルギー業界では、化石燃料への依存や山林を切り開いて行う太陽光発電による環境負荷の増大、発電事業の安全性などが課題となっています。私たちは、農業と発電を両立することができるソーラーシェアリングで、これらの課題を解決することができるのではないだろうかと考え、本プロジェクトに取り組んでいます。

調査・研究によって得られたデータや知見は、営農を適切に行いながら事業性も確保していくという視点で、これからソーラーシェアリングに取り組む方々にとって、非常に重要なものになると考えています。

【千葉エコ・エネルギー株式会社 大木戸圃場】

2018年4月より、千葉県千葉市緑区大木戸町にて、農業を開始しました。ソーラーシェアリング（営農型太陽光発電）設備の下では、サツマイモや里芋などの栽培を行なっています。



JR外房線 土気駅より車で20分

■会社概要

商号 : 千葉エコ・エネルギー株式会社
代表者 : 代表取締役 馬上 丈司
所在地 : 千葉県千葉市稲毛区弥生町2-15 西千葉浪花ビル3F
事業内容 : 自然エネルギー事業化支援, 自社発電事業, 農業
URL : <https://www.chiba-eco.co.jp/>
TEL : 043-301-6998
Email : contact@chiba-eco.net

■お問い合わせ先

千葉エコ・エネルギー株式会社 萩原 領/儀同 千弥
TEL : 043-301-6998
Email : contact@chiba-eco.net